

利根中央病院

第21号
2009年8月

病院 だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

- 理念** 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療
- 方針** ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

残暑お見舞い
申し上げます

今号の特集

- ✖ **がん患者様の在宅療養をサポートするためのプロジェクト**
- ✖ **職場のメンタルヘルスについて**
- ✖ **事務長紹介**



がん患者様の在宅療養をサポートするためのプロジェクトについて

利根中央病院 クリニカルパス
推進委員会 原田 孝



がんの患者様をご自宅で過ごされるに当たっては、症状のコントロールや病気に対する不安感、ご家族の負担など、いろいろと大変なことが多いと思います。

「がん患者様が、症状の十分な緩和を得られた状態で安心して在宅療養を続けられますように」

このテーマを実現するために我々医療スタッフがすべきこと、それは、患者様、ご家族の方々を中心に、各職種が情報を共有し、お互いの信頼関係を築くこと、すなわち、チーム医療の充実をはかることです。そのための道具として、クリニカルパスがあります。検査や手術などを行うにあたって、患者様と医師や看護師、コメディカルが情報を共有する、いわば、「みんなで使う予定表」のようなものです。

このような考え方を取り入れて、がん患者様の在宅療養をサポートさせていただこうと、クリニカルパス委員会と「かんわチーム」がコラボレートして、平成18年、プロジェクトを結成しました。メンバーは、医師、病棟・外来・救急外来看護師、薬剤師、MSW、訪問看護師の有志からなります。

ミーティングを重ねて、「在宅支援パス」のシステムを検討し、全体集会やパス大会を通じて、院内にアナウンスした後、平成19年3月、正式に運用を開始しました。これから、その内容についてお話ししたいと思います。

パスの対象は、在宅療養支援を必要とする患者様で告知の有無は問いません。かんわチームが介入し、症状のコントロールが得られていることを基本とします。

限られた時間の中で、もれなく準備し、その情報を共有するために、「在宅支援カンファレンスシート」を作成しました。在宅療養の限界（どういう状態になったら再入院となるか）や、利用するサービス、用意する物品のチェックなどが記載されます。シートに基づき、各職種のスタッフは準備を進め、退院前に「ケアカンファレンス」を開いてその内容を確認します。

退院後はシートを表紙とした「パスファイル」を作成して、カルテとは別に、昼間は各科の外来、夜間・休日は救急外来にて保管します。シートには急変時の対応なども記載されており、患者様や救急隊からの問い合わせに即時対応できるようにしています。

患者様、ご家族には「療養日誌」をつけていただきます。食事量や体温、排せつの状況、鎮痛剤の使用状況などが含まれており、異変があれば、訪問看護師が電話連絡とともに、「スタッフ連絡パス（訪問→病院）」を病院にFAXします。主治医のコメントなど記載した後、「パスファイル」に綴じられます。逆に、患者様が外来を受診した際など、病院から訪問看護師に連絡することがあれば、「スタッフ連絡パス（病院→訪問）」に記載してステーションにFAXし、これも「パスファイル」に保存します。必要事項はカルテに転記します。こうして、患者様のご自宅と病院とが訪問看護師を通じて結ばれることとなります。

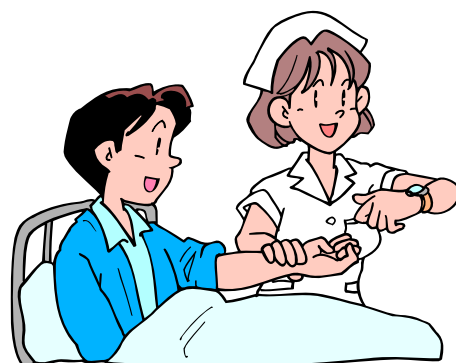
パス運用開始以来、39名の患者様の在宅療養をサポートさせていただきました。診療科も内科、外科を中心にほとんどの科で使用されています。再入院日を決めた上で、ご家族が介護休暇をとって、期間限定の在宅療養が実現できた方もいらっしゃいます。

在宅の限界を話し合っておくことで、ご家族の負担が軽減されたという声もあります。

退院に向けての準備が不十分だったり、院内でパスのシステムが周知されていないと、課題も残されています。最近はこのシステムを利用して、開業医の先生との連携に取り組み始めました。普段は往診を含めた管理をお願いして、訪問看護ステーションを介して、情報を病院にも送っていただき、入院が必要なときには、即時に対応するというものです。

プロジェクトでは隔週でミーティングを続けており、パス使用中の患者様についての報告や導入予定患者様の検討などを行っています。

先日、6月11日には、「在宅支援パス」をテーマにした、「公開パス大会」を当院研修棟の講堂において開催いたしました。院内・院外あわせて、60余名の方々にご出席いただきました。まず、「かんわチーム」の原敬先生より「在宅療養の意義」についてお話いただきました。続いて、3階東病棟の須田良子師長より、システムの説明と使用状況の報告を行い、最後に、とね訪問看護ステーションの栗林由美子主任より、3名の患者様の事例報告と今後の課題についての発表がありました。その後、様々な職種、他院所のスタッフの皆様から貴重な意見をいただき、充実した会となりました。



職場のメンタルヘルスについて



利根中央病院
臨床心理士 阿部 桂

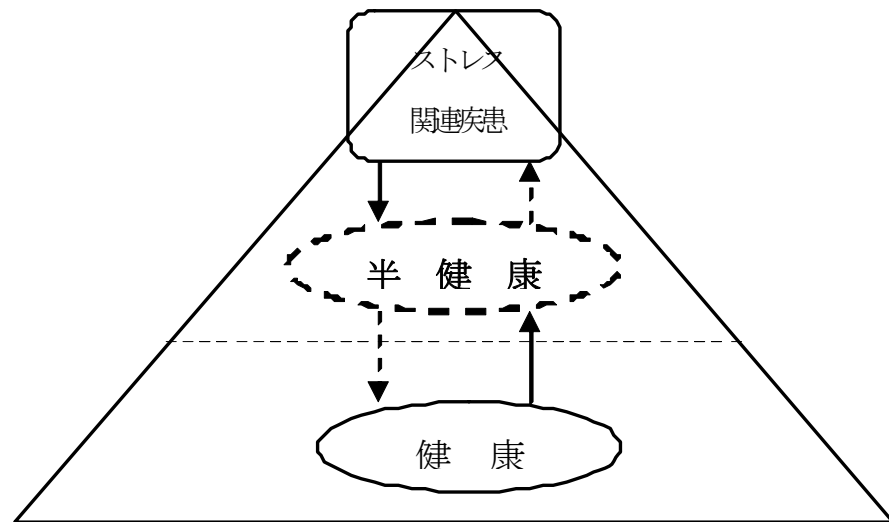
はじめまして、4月から利根中央病院に就職しました、新入職員の阿部です。よろしくお願いします。入協式の朝、伊勢崎から沼田へ向かう途中、景色の変化を楽しみながら、沼田に近づくにつれ雪が舞うのを見て『ここから私の臨床心理士としての活動が始まるんだ』と緊張と期待を胸に、これから始まる新生活に思いを馳せたあの日から、もう5ヶ月がたちました。同期である新入職員の方々は、すでに職場で活躍されているのでしょうか。または、覚える仕事の多さに苦労があったり、病院で働くということの責任と緊張感に疲れてながらも日々働かれているのかもしれませんがね。私も先日職場が変わり、新たな環境で自分の場所を見つけることに奮闘しています。さて、今回“メンタルヘルス”についてお話しようと思います。

“メンタルヘルス”という言葉をよく聞きますが、どういう意味でしょうか。簡単に言うと、いきいき暮らすためのこころの健康ということでしょうか。近年、メンタルヘルスの問題や疾患が社員の病欠理由のトップになっている企業が年々増え、人間関係の問題や業務環境や内容を退職理由に挙げる人も少なくないという報告もあります。職場でのメンタルヘルスの対象となるのは、いわゆる疾患レベルの人だけでなく、“健康な人”や一見健康に見える“半健康人”を含むすべての働く人々です。そのため、1次予防から3次予防までの広い評価が必要になります。1次予防とは発症防止・健康増進に関する予防、2次予防とはうつ病など精神疾患の早期発見・早期治療、3次予防とは職場復帰・再発防止のことですね。職場でのメンタルヘルスでは、自分自身で気に留め、ストレスが過剰な状態に気づき、ストレス・コントロールしていくセルフケア、管理監督者が部下の過剰ストレスに気づき、対応するラインケア、社内外の専門スタッフが行うケアに繋がれることが大切です。

季節は、そろそろ秋です。沼田の秋といえば、りんご、ぶどう、梨などなどおいしい果物がお店に並ぶ季節ですね。肌寒くなってきましたので、沼田周辺の温泉で心身ともにあたたまるのもいいでしょう♪皆さんは、食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋…どのような秋を過ごされるのでしょうか。気分転換やストレス発散をして、適度

なストレスと上手に付き合っていくことで、仕事にもより励めるのではないのでしょうか？ みなさんはどのようなセルフ・ケアをされていますか。 さあ、沼田の秋を楽しみましょう♪

健康－半健康－ストレス関連疾患は同一線上にある。
半健康の対応こそ重要！



半健康とは…

- ▼ 勤務はしているが過剰なストレス状態にある。
- ▼ 職場の4人に1人は半健康！
- ▼ 自分の状態に気づくこと。
- ▼ 半健康状態から、ストレス関連疾患になるのを予防するのがポイント！



病病連携・病診連携の強化と 地域の医療体制の整備に努力

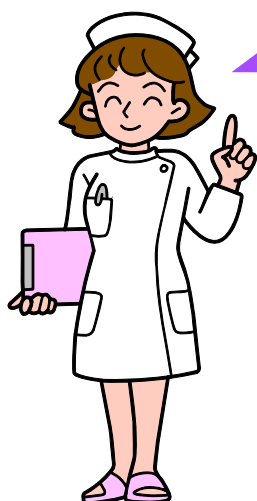


利根中央病院
事務長 林 和博

このたび7月1日付けで事務長を拝命しました。どうぞ宜しくお願い致します。今年2月から事務次長として約10年ぶりの病院勤務となり、7月から事務長となりましたが、重責を担う事になり身の引き締まる思いです。10年ぶりの病院勤務で、あらためて多くの病院が抱えている課題が見えてきました。医師不足、看護師不足、医療費抑制、経営改善など当院も無関係ではありません。特に利根沼田地区においては、救急医療体制が深刻化していますが、地域の中核病院として、様々な課題を乗り越え患者様や地域の皆様の期待に応える必要があると考えています。

地域の第一線の医療機関として、「命と健康を守る」医療機関として、医師や看護師を始めとした多くのスタッフが1年365日昼夜問わず真剣に医療に取り組んでいます。患者様や地域の組合員の皆様がかかりやすい病院を目指し、その為には医師を始めとしたスタッフが働きやすい病院でなければなりません。その為の努力を重ねて行きたいと思っています。

新病院建設では、この間様々な問題で準備が遅れていましたが、患者様や地域の皆様の期待や信頼に応え、すべての人に優しく、共に築く医療の確立を目指し、患者様が安全・安心・信頼して通院や入院できる病院を目指し、長年の念願だった新病院建設に向けて新たなスタートを切りたいと考えています。



事務長を紹介します

地域医療連携では利根沼田地域での当院の役割を再確認し、病病連携、病診連携を引き続き強化して行きたいと思っています。とりわけ救急医療においては病院群輪番制病院との協力は不可欠となりますので関係者の皆様と連携しながらより良い体制を目指していきたいと考えています。利根沼田地域の皆様が安心して暮らせるよう地域医療の充実を目指して、関係者の皆様と共に医療体制の整備に努めて行きたいと考えています。その一助になればと精一杯努力したいと思っていますので、皆様のご指導・ご協力を宜しくお願い致します。

